

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年3月28日

事業所名 コロニー児童デイサービスまえじま(発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・基準に添ったスペースは確保されています。その中で活動の取り組みを工夫しています ・午睡スペースはカーテンの仕切りを利用しています	個別支援や言語訓練時は、個別スペース内で行えるよう、集中できる環境を整えています。
	2	職員の配置数は適切である	6		児童の人数や特性に応じて職員配置を行っています。	児童の特性によっては、職員の配置数が少ないと感じる時もありますので、その時は児童の安全面を優先しながら、活動内容を進めています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		児童の関心に応じて、絵カードや掲示物で理解しやすいように工夫しています。	・児童の状況に応じて環境を整え、危険箇所の安全対策を行っています。 ・室内はバリアフリー対応に適しています。 ・絵カードや写真カードを使い、視覚的伝達支援を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		日々の清掃・環境整備に仕組み、安全で安心して過ごせる環境を心がけています。	・常に清潔で、換気や消毒を十分に行い、心地よい環境を心がけています。 ・心地よく過ごし、支援活動に合ったスペースを確保しています。 ・床のクッションマットの剥がれている箇所の張り替えが必要の為、改善致します。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	職員ミーティングにて、業務改善や今後の活動計画の内容の話し合いを行っています。	職員全員参加の月1回ミーティングを行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		改善すべき点を職員間で見直し進めています。	評価表の内容、指摘された事も含め、真摯に受け止めて、改善に努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ホームページでの評価表の公開案内を、家族会資料の中に添付しています。	沖繩コロニーのホームページにて公開しており、いつでも閲覧できますので、ご覧いただきたいと思います。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6	現在外部評価を行っていない状況です。	評価の結果で外部より指摘がありましたら、改善を行っていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		研修の案内を職員に連携し、参加できる体制を整えています。	研修後、職員全体で共有しています。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		定期的に、保護者と相談員と会議を行い、支援計画の作成をしています。	会議中でのモニタリングや職員とのアセスメントを行いながら、子どもと保護者のニーズを分析し、計画作成を行っています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			アセスメントシートを活用し、一人一人にあった支援活動を行っています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		児童発達支援計画書は、ガイドラインの内容に沿った「発達支援」「家族支援」「地域支援」の中で、子どもや保護者の支援ニーズとそれに基づいた具体的な支援内容を検討して実施致します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		個々の状態や発達の過程・特性等に応じた課題を観察し、記録するよう心がけています。	支援内容について、説明や話し合いを行い、ニーズに沿った支援が行われています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		基本となる活動内容を決め、各月の担当が具体的な内容を決めています。	活動プログラムを立案し、管理者と職員で内容を確認し、相談した上で進めています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		継続して行うプログラムと、新しいプログラムをバランスよく取り入れるようにしています。	毎月の活動担当職員により、児童一人一人の発達ニーズに合わせて、活動プログラムを進めています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	6		集団が苦手な児童に関しては、職員が個別に対応し、状況に応じて参加できるように進めています。	特性や成長レベルに応じて、個別に合った活動内容を組み合わせ支援を作成を行っています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		対応児童に応じて、役割を決めて準備を進めています。	その日の活動のプログラムを確認し、連携を行って進めています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		記録の打ち込みの時に、連携を行うように心がけています。	こども園や保護者からの連携事項は、申し送りに記載し、職員の共有を行っています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日誌や申し送りに記載し、連携しています。	記録しながら、支援内容の共有と検討を行い、改善に繋げるようにしています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		モニタリングを行い確認しています。	個別記録の確認や、モニタリング・成長過程において、支援ニーズが変化している場合は必要に応じて見直し作成を行います。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		会議前には職員に児童の様子を確認し、その様子を会議で伝えています。	・担当者が会議に参加した後は内容を職員に伝え共有し確認を行っています。 ・相談支援事業所との連絡をこまめに行っています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6			必要に応じて、相談支援専門員や関係機関と連携しています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	2	医療的ケアを必要とする対象児童等が、在籍していません。	必要がある場合には、相談支援専門員や関係機関と連携対応します。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	2	医療的ケアを必要とする対象児童等が、在籍していません。	必要がある場合には、相談支援専門員や関係機関と連携対応します。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		相談支援専門員との面談で行っています。	担当者会議の中で連携を行っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	担当者会議にて、就学先の確認を行うようにしています。	相談支援専門員や保育園・こども園と連携しながら、必要に応じて情報共有の場に参加する事もあります。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	会議等の場を通じて、他の事業所から助言を受け、共有しています。	必要に応じて、専門機関と連携していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6			那覇市の連絡協議会・研修会に参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		主に、連絡帳や送迎の時に直接伝えています。	送迎の時に保護者の方から自宅での様子や課題等ある時は、デイでの様子を伝えるように心がけます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		当事業所において、ペアトレは実施できていないが、外部機関において実施される場合は、情報提供を行っています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約の時お伝えしています。運営規定や報酬改定の変更があった際は、その都度お知らせ致します。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			説明を行い、保護者に理解を得て同意を記載して頂いています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者からの相談の時は、その場でお伝えする時と職員間で話し合い伝える場合もあります。	・保護者からの相談については、その都度対応し内容については職員間で確認共有しています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	コロナ禍があげ、今年度は親子遠足を実施する事ができませんでした。	室外での親子遠足(家族参加)で、保護者同士の交流支援を行う事ができました。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			保護者からの相談や申し入れについては、職員間で話し合い適切に対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1		・年1回家族会の資料配布。 ・毎月活動予定表(活動プログラム)の配布。 ・連絡帳にて活動の内容を発信しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			個人情報の取り扱い等は十分に注意して対応しています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			児童の状況に応じて、配慮を行っています。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		今年度初めての防犯訓練(不審者対策)の訓練を実施。	・作成されていないマニュアルに関しては作成中 ・防犯に関して未実施。R6. 2月実施しました ・職員間での周知は出来ているが細かな内容を保護者に周知していない為今後の課題 ・感染症拡大予防のマニュアルはすぐに確認できる場所に置いてあり策定を位しています ・防犯マニュアル作成、発症を想定した訓練を計画し実施した中で課題が多く見られ改善が必要
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			計画的に行っています(年3回計画)
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		食物で反応が出た場合は、除去対応しながら保護者に確認しています。	保護者とこまめに連携を取りながら、対応していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットが起きた場合は、振り返りを行い、記録を共有しています。	各事業所ごとにファイルリングし共有しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		内部研修を実施行っています	職員が研修に参加した際は、研修マニュアルを職員全員に周知し、適切な対応を行えるよう、共有しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1		・内部研修を行い職員間で周知しています ・必要時には計画書に記載して保護者の同意を得ます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。